

Ⅱ 実 践

＜実践例 1＞ 第1学年 平成30年11月 (鈴木孝司)

1. 単 元 My Project 2 人を紹介しよう (Sunshine English Course 1)

2. 目 標

- (1) 新出語句の意味や、スピーチの際に用いられる表現の使用場面・用法を正しく理解し、スピーチの場面に即して適切に用いることができる。 (知識及び技能)
- (2) モデルとなるスピーチを聞き取ったり、そのスピーチ原稿から読み取ったりしたことを活用しながら、メモやキーワードをもとに自分のお気に入りの人やものについてスピーチすることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 聞き手を意識したスピーチになるよう、その内容や発表方法を工夫しながらスピーチしている。 (学びに向かう人間性等)

3. 指導にあたって

(1) 生徒観

生徒は、中学校入学当初から「中学校卒業時に、英語を用いて即興で簡易ディベートができるようになる」ことを目標に、日々の英語の学習に励んでいる。そのために、原稿を暗記して発表するのではなく、構想メモやキーワードをもとに英語で発表する活動に取り組んできた。

前大単元「初めて会うオーストラリアのスワンヒル市の中学生に、英語で自己紹介しよう」では、山形市の友好姉妹都市であり、2年に1度短期交換留学を行っているオーストラリアのスワンヒル市に、交換留学生として派遣された場面を想定して、自分の構想メモやキーワードをまとめたワークシートをもとにしながら自己紹介する活動を行った。ほとんどの生徒が、あらかじめ用意された原稿を読んで発表するのはなく、自分でまとめたメモやキーワードをもとにしながら、英語で自己紹介をすることができた。中には、自分のことをただ話すだけではなく、自分の好きなものについて相手に問いかけてみたり、ジェスチャーを付け加えたりするなど、より聞き手を意識したスピーチを行う生徒もいた。その一方で、発表の声が小さかったり、メモから目を離せなかったり、たどたどしくなってしまうなど、原稿に頼らずにその場で英語でスピーチすることに対して難しさを感じている生徒もいる。

(2) 教材観

本単元は、大単元「自分をより知ってもらうために、自分のお気に入りの人やものをボール先生に紹介しよう」の最終小単元として扱う。前大単元を終えてから、本大単元のゴールを生徒に示し、PROGRAM 5、6、7、8そして本単元の5つの小単元での学習を積み重ねてきた。

内容としては、英語の簡単なスピーチの仕方について学習する。教科書に掲載されてある2つの形式のスピーチ文を聞きとったり読みとったりしながら、ウェビングを活用したスピーチの準備の仕方を学習するとともに、既習事項を用いて、スピーチする際に有効な語句や英語表現について整理する。その後、大単元のゴールでもある前出の課題に取り組む。自分が相手に知ってほしいと思う内容に合わせて、本題材で初めて出会う語句や表現と既習事項を用いてスピーチすることで、これまでの学習の積み上げを実感できたり、英語で自分が伝えたいと思っていることが伝わる達成感を得ることができたりするという点で、生徒にとって魅力のある教材である。

言語材料として、モデルとなるスピーチ文の内容に関わる新出語句や、スピーチする際によく用いられる表現が紹介されている。また、これまで学習した語句や表現が、スピーチの場面でどのように使われるか整理することができる。スピーチのために既習の語句や表現を自分で選択し、適切に用いるという点で、これまでの学習の積み上げを実感することができる。また、メモやキーワードをもとにその場でスピーチをしたり、より聞き手を意識してスピーチしたりするなど、スピーチをする際の基本的な発表の仕方について学習する。

(3) 指導観 ～目指す生徒の姿に近づけるために～

本単元での授業における、資質・能力を発揮している生徒の姿を、以下のように考えている。

メモやキーワードをもとにしながら、関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて相手を意識しながら即興で話すことができる。

英語科では、外国語を通じて主体的に人や社会とかかわりをもち、場面や目的、相手に応じてより適切に伝え合う生徒を育成することを目標としている。特に第1学年では、関心のある事柄について、相手を意識しながら即興で伝え合うことができる生徒を目指している。本単元ではとりわけ以下の点に重点を置き、指導にあたる。

①本単元で付けさせたい資質・能力

本単元では、

- i 自分のお気に入りの人やものについて、メモやキーワードをもとにしながら即興でスピーチする。
- ii 聞き手を意識して、内容や発表の仕方を工夫しながらスピーチする。
- iii 自己評価と他者評価の違いに気付き、より聞き手を意識してスピーチする。

以上の3点を、「関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。」(オ 話すこと【発表】(ア))の重点として、単元を通した課題とする。あらかじめ原稿を準備して話すのではなく、自分の興味・関心が高い事柄であれば、既習の知識や技能を生かしてその場で話す力を付けたい。また、即興で英語で話すこと活動に繰り返し取り組ませることで、たどたどしくても主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を養っていく。これは、特に全教科共通で重視して育む資質・能力②「知識や技能、経験の生かし所を見いだす力」を伸ばすことにつながると考える。加えて、自分のスピーチを様々な角度から評価し振り返ることで、より聞き手を意識して話そうとする態度を養いたい。そうすることで、全教科共通して重視して育む資質・能力④「学びを評価し、課題を見付ける力」を高めることにつながると考える。

②留意点

学習を進めるにあたり、特に以下の点に留意する。

- ・メモやキーワードをもとにしながらその場でスピーチできるように、教科書本文を絵やキーワードを用いて自分の言葉で相手に伝える活動に取り組ませる。また、相手を変えて繰り返し即興でスピーチする場面を設ける。そうすることで、たどたどしくても即興でなんとか相手に伝えようとする態度が養われると思われる。
- ・より聞き手を意識してスピーチすることができるように、①自分のスピーチに対する自己評価、②iPadで撮影された自分のスピーチを視聴することによる客観評価、③同学年の仲間からの客観評価、④同じ活動を昨年度経験している2年生からの客観評価、以上の4点から自分のスピーチを評価させることにより、自己評価と客観評価のギャップに気付き、振り返りと再挑戦を繰り返しながら、既習の知識や技能を活用してより相手を意識したスピーチができるようになると考える。

4. 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう人間性等
①既習の単語や表現から、場面や伝えたい内容に応じて適切に選択して用いてスピーチしている。	①教科書本文の内容について、絵やキーワードを用いながら、口頭で説明している。 ②メモやキーワードをもとにしながら、自分のお気に入りの人やものについて即興でスピーチしている。	①聞き手を意識しながら、自己評価や客観評価をもとに、内容や表現方法を工夫して話そうとしている。

5. 学習計画（8時間計画）

★本単元での授業における資質・能力の発揮につながる姿とそのための手立て

学習活動（時数）	目指す生徒の姿（観点）	教師の手立て
1. 本単元の課題を再確認する。（1）	・これから行うスピーチの形式や方法を理解している。（知）	・学習のゴールとなる姿を再確認するために、以前に提示したモデルとなるスピーチを再度聞き取ったり、その内容を読み取ったりさせる。
2. スピーチで用いる語句や表現について整理する。（1）	★教科書のスピーチ文を聞いたり読んだりし、キーワードを用いてその内容を口頭で説明している。（知・思）	★教科書で紹介されているスピーチの内容を正しく聞き取ったり読み取ったりできているかどうかを確認するため、キーワードを用いて、本文について口頭で説明させる場面を設ける。
3. 課題について、自分の構想を整理したり、発表の準備をしたりする。（2）	・スピーチで話そうとする内容をウェビングで書き出し、順序立てて整理したり、キーワードを書いてまとめたりしている。（知・思）	・スピーチの内容を整理するために、ウェビングマップを用いて考えをふくらませる。また webbing で広げたアイディアから発表で用いる順番を決めたり、キーワードを書かせたりする。
4. 個人やペアでスピーチ練習をしたり、内容や表現方法を工夫したりする。（2） 本時2／2	★自分や仲間のスピーチを見て、スピーチの内容や表現方法を振り返り、より相手にわかりやすいスピーチをしている。（知・学） ★同じスピーチを経験したことのある相手にスピーチし、その人からのアドバイスをもとにスピーチを工夫している。（学）	★より相手に伝わりやすいスピーチになるよう、スピーチの際に気を付けたい観点を提示する。また、iPad で撮影した自分のスピーチを見たり、仲間のスピーチのよさに気づいたりするために、評価し合う。 ★自分のスピーチをよりよいものにするために、同じスピーチを経験した2年生を相手に発表し、アドバイスしてもらう場を設ける。
5. Paul 先生や仲間の前で、スピーチする。（2）	★Paul 先生や教室全体の前でスピーチを行い、その内容について英語で質問したり答えたりしている。（知・思）	★原稿を暗記して発表する形式のスピーチにならないように、構想メモやキーワードをもとにしながらスピーチさせる。 ・一方的なスピーチにならないようにするために、スピーチ後に英語で質問したり、その質問に答えたりする場を設ける。

6. 本時の学習活動

(1) 目 標

より相手に伝わりやすいスピーチになるように、「4 S」を意識して、内容や表現の方法を工夫して話すことができる。

(2) 展 開

学習活動	目指す生徒の姿	教師の手立て
1. 本時の学習課題を理解する。 【個人】	・ 前時までの自分のスピーチの課題を確認し、本時のスピーチ練習で課題とするポイントを確認している。	・ 本時の課題意識が明確になるよう、「4 S」を確認したり、前時の自己評価や他者評価を振り返ったりさせる。
より相手に伝わりやすいようスピーチになるように、前時までの自己評価や他者評価、今日の先輩からのアドバイスをもとにしながら内容や表現方法を工夫しよう。		
2. 2年生や仲間を相手に、スピーチする。 【グループ】	・ 学習活動1で確認した本時の自分の課題を意識しながら、2年生を相手にスピーチしている。	・ より相手に伝わるスピーチになるための的確なアドバイスができるよう、「4 S」の観点別評価を、ワークシートに記入させる。
3. 2年生や仲間からのアドバイスをもとに、スピーチ練習する。 【個人＋グループ】	★自分で気づいたり、指摘されたりした改善点をもとにしたスピーチ練習に取り組んでいる。	★それぞれの改善点をもとにした練習ができるよう、机間指導を行いながら、個人の課題に応じたアドバイスをする。
4. 相手を変えて、再度スピーチする。 【グループ】	★学習活動3で話し合ったことをもとに再度スピーチしている。	★改善点を意識しながら、より相手が理解しやすいようなスピーチができたことが実感できるよう、もう一度スピーチをする場を設ける。
<重点を置いた英語の資質・能力を発揮している姿> ★より相手に伝わりやすいスピーチになるように、これまでの自分の課題や2年生からのアドバイスをもとにしながら、工夫してスピーチしている。		
5. 本時の振り返りを行う。 【個】	・ 自分のスピーチがよくなった点や、さらに工夫したい点をワークシートにまとめている。	・ 次時で行うスピーチに本時の学びを活かすことができるよう、できるようになったことや本番でのスピーチの際に気をつける点をワークシートに記入させる。

(3) 評価とその方法

相手に伝わりやすいスピーチになるように、「4 S」を意識して、内容や表現の方法を工夫して話すことができたかどうかを、学習活動2、3、4のペアやグループ、個人毎の活動の様子の観察や、学習活動5のワークシートへの記入内容から評価する。

7. 授業を終えて

実践を通しての成果（○）と課題（▲）は以下の通りである。

- 教科書の PROGRAM 5～My Project 2 (p.50～89) までを 1 つの大きな単元としてとらえ、PROGRAM 5に入る前に目指す姿を教師が実際の姿で例示したことで、生徒が教科書をより深く学習することにつながった。

【本時の生徒の振り返り及び学年末生徒アンケートより】

- ・先生があらかじめ例を示してくれたことで、これから何をどのように学習していけばよいかが明確になった。
- ・普段の授業では、新出単語や表現だけでなく、構成や内容にも目を向けて、教科書で学習することができた。またその教科書での学習を自分の発表につなげることができた。
- ・言い回しが難しかったり、構成に迷ったりしたとき、教科書で学習した内容を再度確認したり、教科書の構成を参考にしたりしながら、自分の発表について考えることができた。

- 目指す姿を「B」「E」「S」「T」というキーワードで提示したことにより、生徒は自分の課題をより焦点化して捉えることができた。
- ループリック形式でそれぞれのキーワードについて評価基準を定め、自分があらかじめどのレベルを目指していくかを定める時間を設けたことで、より具体的に目標設定ができ、目的意識を持って練習を繰り返すことができた。
- 相手を変えて発表練習したり、再度同じ相手に発表練習したりしたことで、発表者自身が自分の英語の技能の高まりを実感したり、他者の発表から自分の発表の課題点を見いだして、次への課題を生み出したり、参考にしたりして、自分の発表に生かしていた。
- ▲「B」「E」「S」「T」というキーワードが適切であったかどうか、もしくはもっと焦点化してもよかったのではないかな。また、提示したループリック形式での評価の内容や規準は適切であったかどうか。

【本時の生徒の振り返り及び学年末生徒アンケートより】

- ・「B」「E」「S」「T」それぞれについて、練習の中で自分の課題を見つけ、練習を繰り返すことができた。
- ・自分がここまで高めたいと思うレベルに向かって練習に取り組むことができた。

- 様々な視点（指導案中、3. 指導観参照）から自分の発表を多角的に評価したことが、自分の発表により自信を持たせたり、自分の評価とのギャップに気付いたりすることにつながった。
- 同じ学年の仲間だけでなく、2年生の先輩を相手に発表したり、先輩から評価してもらったりしたことで、より緊張感をもって本気で発表練習できた。
- ▲評価カードを活用したことで、仲間や先輩からの評価をあとで振り返ることができた。その一方で、カード形式にせず簡単な英語でアドバイスをし合う場面（例、Your “B” is very good.）を設けることもできたのではないかな。

【本時の生徒の振り返り及び学年末生徒アンケートより】

- ・自分ではできていると思ってことが、先輩や仲間からの評価が低くびっくりした。
- ・先輩からほめられたことで、より自信をもって発表に臨めるようになった。
- ・評価カード見返しながら、繰り返し練習に取り組むことができた。

- ▲生徒同士で評価し合っている内容が、教師が狙っている評価基準とずれていなかったかな。